

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会福祉法人 誠和会		
事業所名	グループホーム すみれの花		
所在地	福岡市早良区荒江3丁目20番3号		
自己評価作成日	平成22年4月5日	評価結果確定日	平成22年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>〔利用者本位のケアを心掛けている。〕 利用者の能力・趣味・趣向・生活の継続性等を考慮した上で、行事やレク、日常生活の支援を行なっています。 畑仕事にお誘いしたり、お菓子作りをして頂いたり、買い物や新年会・誕生会、地域行事に参加したり、ドライブに出かけたりと希望を聞きながら進めています。</p> <p>〔家族との連携〕 面会時に報告・相談を受けたり、カンファレンスを通じて連携を取っています。また、新年会や花見など家族参加の行事を行ない、職員・家族間の交流を図り、信頼関係を構築しています。</p> <p>〔職員の質の向上〕 事業所内・法人内では年間を通じて計画的に職員研修を実施し、法人外では勉強会に行く機会を創出し、職員の知識・技術の向上に繋がっています。また、他事業所との連携・情報交換や交流も推進し、職員の質の向上を図っています。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年4月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設長・福祉部長・管理者・職員の相互の信頼関係が確立しており、定期的または日々のかかわりの中から、利用者一人ひとりの思いや希望、趣味や興味を持ちそうなことを把握し、よりその人らしいあり方や暮らし方の継続支援への取組みが行われている。ご家族との連携やコミュニケーションも良好で、利用者の暮らしびりを伝える仕組みもしっかりとしており、利用者の自立に向けて家族とともに取り組んでいる。今考えられている、地域での介護教室や相談、認知症の勉強会の開催などを通じて、今後ますます、互いに支えあいながら普段着での地域との交流が期待できるホームである。</p>

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すみれの花の目指すべき介護目標「全ての方の人格を尊重し、共に歩み共に喜び、お一人お一人が主体性を持って地域での生活を継続出来るよう自立のお手伝いをさせていただきます。」を共有できるよう、職員の名札に入れてあります。それが実践に繋がるよう、グループホーム会議やカンファレンスを通じてサービスの質の向上に心掛けています。	法人全体としての理念とは別に、グループホーム独自の理念を職員で作成し、ホーム内に掲示してある。会議では理念を唱和し、理念を意識しながら日々のケアへの取組みがある。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常にお散歩に出かけ、近所の方々に挨拶をしたり、買い物をしたり、廃品回収に参加したり、ゴミ拾いをしながらコミュニケーションを図っています。公民館や地域の行事に参加したり、夏祭りを盛大に行い、地域の方々にも楽しんで頂いています。	地域文化祭への作品の展示と見学、地域夏祭りへの参加、廃品回収への協力、地域商店の利用、日々の散歩時の挨拶など、日常的なお付き合いが行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、いきいきセンターふくおかの担当者に地域への訪問を依頼しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回資料を作成し、提供状況を報告している。また、最近の利用者様の事例や新型インフルエンザ・消防対策など重要事項について説明している。民生委員や包括支援センター、近隣の事業所や市役所職員からも多彩な意見が寄せられ、サービスの向上に役立てています。	関係者を招いて2ヶ月毎の開催がある。運営推進会議では、会議の進め方について行政の職員の方よりアドバイスを頂いたり、家族同士の交流の機会の確保について提案を受けるなど、活発な意見交換が行われている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき助言を得たり、分からないことがあった場合は、随時連絡しています。	運営推進会議への行政担当職員、地域包括支援センター職員の参加がある。また、勉強会時に法務局の方が来所するなど、行政との連携への取組みがある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束委員会が設置されており、委員を中心に取り組んでいます。現在、センサーマットやタッチコールを活用することで、身体拘束は行なっていない。職員が身体拘束に関して正しい知識が得られるように勉強会も実施している。	身体拘束に関する禁止行為や取り巻く環境、言葉かけ等について勉強会で取り上げて学んでいる。玄関出入り口は、外部からの不審者侵入の防止を目的としてオートロックシステムを採用しており、中からは自由に外に出ることができる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回のグループホーム会議、カンファレンスなどさまざまな場で言葉遣いや態度に問題が無いか注意しあっている。施設内(法務局に来てもらい)で勉強会も行ない、参加できない職員も資料を閲覧し、知識の向上に努めており、外部研修にも参加している。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を活用している事例は無いが、勉強会を実施し、知識として職員に理解させている。パンフレットなども準備して、説明しやすいようにしている。	年に1度、法務局の職員による制度や人権等について、家族、職員を交えての勉強会への取組みがある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初期導入時の関わりが非常に大事なので、申し込み 面談 契約という手順で、利用者様やご家族の不安や疑問を尋ねながら、他職種による説明を行なっている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置すると共に、玄関口にはご意見ポストを設置し意見を収集している。苦情ではないが、日頃からの会話からできる意見も運営に反映させている。又、行事が終わった後や食事に関するアンケートを実施している。	家族面会時やカンファレンス時、運営推進会議時等を通じて、家族の意見・要望の表出に努めている。今回、ホーム行事後に初めて家族アンケートを実施するなど、家族の意見を積極的に把握し取り入れるための取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム会議、申し送り、などで意見や提案を聞き運営に反映させている。また、タイムカードの横にご意見ポストを設置したり、施設長との面談の機会があり、悩みや改善点について直接話すことが出来る。	業務改善会議や施設長との年2回の個人面談等を通じて、職員の意見等の把握が行われている。出された意見等については、職員会議にて要望と改善策について周知するなどの取組みがある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に合った研修会の参加を促している。年に2回、個人面談を行ったり、各部署会議、親睦会を行い内部コミュニケーションを高めています。勤続3年以上の職員を対象に年に1~2回、ドイツや韓国への海外研修に派遣する仕組みがある。また、永年勤続者には永年勤続功労が実施されている。系列法人内に保育所を設置するなどして、働きやすい職場環境を整えている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	本人の資質や介護への情熱を重視した採用を行っており、事業所には、性別・年齢・経験など様々な職員が従事しています。応募時には一次・二次面接を実施し、慎重に検討している。	職員の募集・採用にあたっては、何らの制限も設けていない。法人として募集を行い、希望やその時々々の部署に応じて配属先を振分けている。資格取得のために勤務調整を行ったり、ホーム便りの作成が好きな職員がホーム便りにかかわるなどの取組みがある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新採用時及び年間を通して計画的に『高齢者に対する尊厳』や『プライバシーの保護』、『高齢者虐待防止』などについて教育を実施している。時には外部機関に来ていただいています。	年に1度、法務局の職員による制度や人権等についての勉強会を通じて、学びを得ている。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で教育委員会を中心に年間計画を作成し、計画に沿った研修を行なっている。また、新採用職員にプリセプターを付け、チェックリストに添って指導にあたっている。又、段階に応じた内部・外部を含めた研修会への参加や勉強会を行なっている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	福岡市認知症高齢者グループホーム協議会Cブロックに属し、1回/月の勉強会に参加し、交流を図ると共に、サービスの向上に心がけています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には、本人・家族の思いが汲み取れるよう特に時間をかけて、話をしている。相談に来る方々は、どうしていいかわからずパニックになっている方も多いため、話を聞きながら、「何を望まれているのか」を模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様。家族の希望に合わせて受け入れられるよう努力している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに詳しい状況を伺い、「今、何が必要なのか」を検討している。必要があれば、併設の他事業所職員とも相談している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬いの気持ちを持って日々接している。花の名前や行事の由来、歌など職員が教わることもとても多い。食事やお菓子を作ったり、掃除をしたりしながら、日々の生活の中で、共に笑い・共に喜び・共に泣き、一緒の時間を共有している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に気軽に話し合える雰囲気を作っている。また、対応に困ったときなどは家族に相談し、情報交換を行ったり、年2回の手紙の発送や行事に家族の参加を促し楽しいひと時を過ごして頂いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	葉書や電話を通じ、関係を断ち切らないようにしている。面会時に写真を撮らせてもらい、思い出を作るお手伝いをしている。また、馴染みの方々に気軽に来て頂けるようコミュニケーションに努めている。本を持って来て下さったり、そば打ちに来られた事もありました。	実の妹宅への訪問や自宅への帰省、教え子の来訪、趣味の継続への支援など、馴染みの方々や家族の協力のもと、関係性の継続に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握できるよう、グループホーム会議やカンファレンスや申し送り等を活用して情報の共有化に心がけている。人と関わるのが苦手な方に関しては、その方の趣味・趣向を活用して孤立しないように対応している。テーブル配置や座る位置・家事の分担にも配慮しています。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所になり契約終了になった利用者様にも、できるだけお見舞いや様子伺いに訪問しています。併設施設へ入所された方には、誕生会等の行事にも参加して頂き、関係を継続しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に、日常の関わりの中で、一人ひとりの思い・意向の把握に努めています。自分で訴えられない方に対しては、どのようなことを望んでいるかを検討して支援している。	日々のかかわりやカンファレンス等を通じて、利用者一人ひとりの思いや希望、趣味や興味を持ちそうなことを把握し、介護計画に反映させての支援がある。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に、職歴や趣味・趣向、サービスを利用するにいたった経緯や今まで利用したサービス等について幅広く話を伺っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で、どのように過ごしたいのかを入居者との会話や表情などから今の状況を読み取り対応している。又会議やホームノートを通して情報を共有化している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員などで随時情報交換を行なうとともに、月に1度のモニタリング、必要に応じてカンファレンスを行なっている。また、月に1回のグループホーム会議や申し送りなどで意見交換を行ない、計画書に反映させている。	日々のかかわり等を通じて、利用者の思いや希望を把握し、家族面会時に家族の意向を把握し、職員会議時やカンファレンスで協議している。介護計画の内容は、利用者一人ひとりの趣味や興味などを反映させた内容である。	今後、センター方式の取組みを検討されています。日々のかかわりを通じて把握した情報を職員間で共有し、より個別・具体的な介護計画書となるよう、今後の取組みに期待します。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに関する記録や療養記録があり、特記事項を記入しています。計画書の見直しの際にも活用している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に合わせたプラン作成後、本人様に添った支援を行なっている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員らと運営推進会議や第三者委員などを通じて意見交換を行ない、地域との関係強化を進めている。その過程でボランティアなどの社会資源の掘り起しが出来ました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの協力病院にて受診や定期健診を実施している。	契約時に、ホーム協力病院と今までのかかりつけ医の利用継続について説明している。今までのかかりつけ医へは、家族対応にて継続受診が可能である。ホーム協力病院への受診や定期健診はホーム対応で行っている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師との連携を取っており、夜間もオンコールにて報告・指示を受けられるようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合は、お見舞いに出向くと共に、看護師や主治医などと情報交換を行なっている。家族とも情報を共有しながら、退院後にも備えている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について話しています。	契約時に、家族の意向の把握は行われているが、本人の意向の把握は行われておらず、今後の課題である。	今後、センター方式の取組みを検討されています。日々のかかわりの中での本人の言動や行動などから本人の意向を探り、本人の意向に沿った支援を行うツールとしてセンター方式の内容の充実と情報共有への取組みに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人で年間を通じて計画的に緊急時の対応や、救急蘇生法について内部研修を実施している。また、常日頃より緊急連絡ルートの確認を実施している。随時、外部研修にも参加している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施、消防署の職員にも参加してもらっています。3月の訓練では、終了後に消防署員に設備を見ていただいて助言を仰ぎました。	消防署職員の立会いの基、年に2回、併設施設との合同による避難訓練の実施がある。消防署職員から避難場所についてのアドバイスを頂いたり、運営推進会議時に災害時等についての質疑応答が行われるなど、災害などを意識した取組みが行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物は、目に触れないところに収納している。職員は、利用者様に対して馴れ合いにならないように、グループホーム会議やカンファレンスを通じて言葉遣いに関して確認を行なっている。また、個人情報の取り扱いやプライバシー保護について研修を行なっている。	プライバシーに関するグループワークを通じて、職員の意識を喚起する取組みがある。言葉かけやプライバシーへの配慮については、職員一人ひとりが自覚を持って、丁寧に対応している姿が見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で希望を聞き、行事等の説明もその方にあった分かり易い言葉で説明して、納得いただいている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの動きを見て、居室で過ごしたい方、本を読みたい方、お話をしたい方、動きを把握して自分のペースで生活していただいている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用しているが、個人で行きつけのある方は家族と行かれている。また、朝は、洗面所でお化粧をして頂き、洋服も好きなものを選んでいただいています。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士にメニュー作成時に助言してもらっている。食材を切ったり、皮をむいたり等の調理や食事の準備、片付けも入居者を中心に行ない、にぎやかな食事の時間になっている。また、年に2回、アンケートを実施し、改善に努めている。	食事の下ごしらえや配膳、食器洗いなど、利用者の出来る事を把握して、介護計画に取り入れての支援が行われている。買い物時の食材を選んでいただくなど、食を大きな楽しみの一つと捉えての支援が行われている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にメニュー作成時に助言してもらっている。食事チェック表にて摂取量を管理し、水分量の少ない方には好みのものを提供し、水分補給を促している。疾病などで水分や加里を制限されている方もいるので、特に気をつけています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要物品を持参していただき、毎食後に口腔ケアを実施している。一人一人の状態に合わせて支援しています。異常が見られた場合は家族へ連絡し、受診(往診)を勧めている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄リズムを把握し、失禁なく快適で清潔が保持されるよう心がけ、必要な方には時間や行動を観察して誘導している。また、入居前はおむつを使用し定期的に下剤を服用されていた方が、運動と食事の調整により自然排便が出来るようになった。布パンツとパットで過ごされるようになり、便失禁もほとんどみられなくなった。	排せつチェック表により、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、利用者に合わせて声かけ・誘導等の支援が行われている。トイレでの一連の排せつ動作をりハビリと位置づけて支援に取り組むなど、自立に向けての支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が栄養バランスを考慮してメニューを作成している。食事チェック表にて摂取量を管理し、水分量の少ない方には好みのものを提供し、水分補給を促している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の希望や健康状態、気分を考慮して、気持ちの良い入浴の提供を心がけています。入浴剤を使用し、リラックス効果も考慮している。	週2～3回を目途に、利用者の希望にそった入浴支援が行われている。利用者毎にお湯を入れ替え、入浴剤の使用など入浴が楽しめるような工夫がある。入浴拒否が見られる利用者に対しては、誘導方法等の情報を職員間で統一して支援を行うなどの取組みがある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様お一人おひとりの生活習慣を考慮・把握して、適度な午睡や運動・就寝の支援を行ない快適な生活リズムができるようにしている。また、何年も眠剤を服用していた方がご自分から「飲まずに眠れるようになった」と申し出があり薬を中止した。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報提供表をファイルに入れていつでも管理できるようにしている。予測される副作用については確認すると共に、薬が変わった場合には、申し送りを通じて周知させている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、食器洗いに洗濯物たたみ等、出来る方にはして頂き、役割を持って生活していただいている。手芸や書道など今までの趣向を継続していただいている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望で、玄関や庭に出て野菜を植えたり草花を育てたり、水を撒いたり、お散歩をしたり、買い物に出かけています。そのほか動物園や大濠公園、花見、海など、利用者や家族に希望を聞きながら進めてきました。地域の方々の協力もあり、近所の夏祭りにも参加しました。	月に1度、行事として計画立てての外出が行われている。行事としての外出以外に、食材や私物の買物、クリーニングの受取り、その時々散歩など、外に出る機会を捉えての外出支援がある。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されている。買い物の際には支払いを自分たちで行なえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある場合には、かけていただいている。携帯電話を持っている利用者様もあり、家族や友人とコミュニケーションを図っている。手紙のやり取りをしやすい様にポストを設置している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた明るい施設であり、落ち着いた雰囲気の木調のドアになっており、安心して出入りできる空間になっている。温度・湿度にも注意し、空調や加湿器を使って快適な空間の維持に心掛けています。	ホーム周囲に、数種類の木や花、植物を植え、芝生を整備するなど、ゆっくりと自然を感じることが出来る。絶えず居間に利用者が集い、仲の良い利用者同士の談笑や利用者職員との何気ない会話が聞こえるなど、居心地良く、安心して生活していることが伺える。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の作品を飾ったり、生け花や絵画・季節の飾り物(クリスマスリースや鏡餅、等)を飾ることで、落ち着く雰囲気作りに配慮している。対面キッチンや木の椅子等を置き、開放感のある空間作りに心がけました。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り今まで使っていた生活物品・写真などを持ってきて頂き、少しでも安心して過ごせる、自分の居場所だと思っていただけるような空間になるように配慮しています。	居室には、洋服箆笥、テレビ、写真、人形、椅子など、馴染みの物や思い出の品が持ち込まれており、利用者の人となりが見える居室となっていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、通路には手摺りを設置したり、歩きやすい、移動しやすい空間になるように物品の配置に注意している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			